

国・県の交付金による取り組み

(注：観光客を6万人増やす目標はすでに達成)

2. 「日本遺産」

認定を受けたストーリー

◎「江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～」

大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木太刀を担いで江戸から運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、粹とされた他に例を見ない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵に取り上げられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心呼び起こし、江戸の人口が100万人程の頃、年間20万人もの参拝者が訪れた。

大山詣りは、今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然と触れ合いながら歴史を巡り、山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき、大山に憧れた先人の思いと満足を体感できる。

所感

日本遺産に認定されたストーリーとは形が変わっているが、今も関東一円に存続する“講”により、「大山詣り」が続いていること、ストーリーの主な構成文化財も多く存在していること、そして、伊勢原市内に存在する、国指定重要文化財(11)、国登録文化財(5)、県指定重要文化財(14)、市指定文化財(33)と、非常に多いこと、更に、阿夫利神社関係の祭事や催しも非常に多い。観光客誘致に大きな強みである。

建て替えられたと思われる阿夫利神社の社殿もろもろや能楽殿等、とても立派であると共に、あらゆる物に個人名や団体名そして会社名が書かれ彫られている。いかにも莫大な寄進が有ったものと想像できる。

我が町の大山寺とは大きな違いである。

これだけ恵まれた環境であり乍ら、課題(○閑散期の集客/宿泊客の減少 ○おもてなしの向上 ○国内外への効果的な情報発信 ○観光客の受け入れ態勢の改善)を掲げ解決に向けて「平成大山講プロジェクト」を立ち上げ、具体的に様々な政策や事業を推進している。

我が大山町も参考にすべき点が多いと感じた。

何名もの職員を動員して、暑い中、現地案内や誘導に携わって頂いた、なかなか出来ない事である。心より感謝とお礼を申し上げたい。

今回の行政視察は、得るところ大であり有意義であった。

以上